

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH280
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 5
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	小黑 正幸
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復領域で使用する物理療法機器等の原理、その作用機序等を学び、その適切な取扱いに関する知識、禁忌、臨床での実例などを、教授します。そのために必要な解剖学的な知識、理論についても随時補足していきます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科医院、接骨院での10年以上の臨床実務経験を活かして、様々な物理療法の使い方や、組み合わせたの使用法などを具体的に教授するとともに、実際に体験してきたエピソードを用いて、禁忌など命に係わる重要事項を記憶に残しやすくする授業を展開し、教授します。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」者になるため、最新の研究や科学的理論を学びながら、伝承的医療技術や臨床経験を取り入れることにより、物理療法と身体に関する知識を総合的に理解する能力を身につけるとともに、確かな知識に裏付けられた創造的な思考力、実践力の獲得を目標とします。
計画・内容	<p>1) 講義の進め方と勉強方法などの説明、物理療法の定義と目的 復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>2) 物理療法と医療倫理 予習・復習：痛み、こころ、からだ、いのちについての文献を熟読</p> <p>3) 痛みの定義とその伝導路（痛みとその伝わり方の理解） 予習・復習：配布資料および解剖学の該当箇所の予習・復習</p> <p>4) 痛みの定義とその伝導路（脊髄と脊椎の解剖） 予習・復習：配布資料および解剖学の該当箇所の予習・復習</p> <p>5) 物理療法の分類と安全対策 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>6) 電気療法 原理と効果 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>7) 電気療法 種類と安全対策 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>8) 物理療法の実際（電気療法・実技） グループワーク制で、人数制限により課題授業を併用する。 予習・復習：これまでのすべての復習。</p> <p>9) 温熱療法 原理と効果 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>10) 温熱療法 種類と安全対策 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>11) 温熱療法 変換熱と超音波 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>12) 光線療法・寒冷療法 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>13) 牽引療法、その他の物理療法 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認</p> <p>14) 症例検討・グループワーク</p>

計画・内容	<p>予習・復習：これまでのすべての復習。臨床実習で得た知識との照合。</p> <p>15) 総まとめ</p> <p>予習・復習：これまでのすべての復習。ポイント解説の確認。</p> <p>ただし、オンラインによる学習となった場合には、実技およびグループワーク等は不可能であるため、他の講義と置き換える場合がある。</p> <p>その際には事前に通知する。</p>
授業の進め方	<p>講義は、主にプリントとパワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを活用して学生の理解を深めます。また、物理療法機器の取り扱いにおいては、臨床実習、と関連させて、理論的な知識と、実践における知識の結合・融合を図ります。さらに、実際に理論と実感を融合させるためのグループワークと、命にかかわる医療関係者を目指す者としての自己学習を実施します。</p> <p>オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義をし、その後にレポート提出することを基本として進めていきます。課題学習を併用します。</p> <p>オンライン学習における出席は提出物および、オンライン授業の出席を総合して判断します。</p>
能動的な学びの実施	<p>映像やプリントでの学習後、体験学修として実際の物理療法機器に触れ、教員の指導、操作のもとに効果を体験し、理論を具現化することによって、知識の効率的な吸収を図ります。</p> <p>また、一部の学習においては、命題について文献の引用法や文章の構成を学びつつ、自ら調べ、答えを見つけていく時間を作ります。</p> <p>オンライン学習の場合も、レポートにおいて能動的かつ自発的な学習を推薦し、評価します。</p>
授業時間外の学修	<p>本講義においては、復習が重要と考えます。予習は、復習の意味を含め、前回の講義で配布された資料の講義済みのところから、これから講義するところまで目を通しておいてください。復習は、小テスト対策も含め、ポイントとなるところを中心に自分なりにまとめておくことを勧めます（各回合計1時間程度）。</p> <p>オンライン学習においては、オンライン講義後の復習、項目ごとの確認小テストの予習復習を強く推奨します。</p>
教科書・参考書	<p>「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験の成績（90％）、出席、レポート、小テストを含む平常点（10％）にて評価します。</p> <p>試験に関しては、教授範囲内の物理療法およびその作用機序（解剖学的知識、実践的知識を含む）に関する客観式試験（出題形式は柔道整復師国家試験に準じ、マークシート方式）とする。</p> <p>ただし、オンライン学習においては、講義レポートの評価（出席を含む）（50％）、定期テスト（50％）とする。</p> <p>定期テストの公正な実施が難しい場合には、出席および確認小テスト等の平常点（20％）とレポート評価（80％）に変更とする。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>小テストの答案およびレポートは返却し、授業内で解説・総評を行います。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目。</p> <p>また臨床実習、に関連する。</p> <p>解剖学における感覚神経の伝導路を各自復習しておくことが望ましい。</p> <p>必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義をし、その後にレポート提出することを基本として進めていきます。課題学習を併用します。</p> <p>オンライン学習における出席は提出物および、オンライン授業の出席を総合して判断します。</p> <p>オンライン学習においては、講義レポートおよび提出物の評価（出席を含む）（50％）、定期テスト（50％）とする。</p>

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	ただし定期テストの公正な実施が難しい場合には、出席および確認小テスト等の平常点（20%）とレポート評価（80%）に変更とする。
------------------------------------	---